南船北馬

「これっぽっちのうち。」

作：棚瀬美幸

登場人物：

飯塚　直樹	４２歳	賃貸アパート住まい
楠根　結花	３１歳	賃貸アパート住まい
田淵　将司	４１歳	中古一戸建て住まい
田淵　彩夏	４０歳	中古一戸建て住まい
佐藤　浩之	４２歳	分譲マンション住まい
村上　恵	３８歳	分譲マンション住まい

シーン・1

分譲マンションの一室。大きな窓のあるリビング。
佐藤浩之が彫刻刀を片手に何かを彫っている。鼻歌を歌っていてご機嫌な様子。
恵が部屋に入って来る。

恵　ねえ、
浩之　ん？
恵　いつからここにいた？
浩之　え、いつからって？
恵　ずっとここにいた？
浩之　うん、ずっとおったけど。
恵　でも、夜はいなかったでしょう？
浩之　え、夜？
恵　夜はここにはいなかったじゃない。それともここで寝たの？
浩之　そりゃあ、夜はお布団やったけど。って、一緒の部屋やったやん。
恵　やっぱりずっとはいなかったんじゃない。
浩之　それはそうやけど、
恵　でも、さっき、ずっとここにいたって。
浩之　ずっと、言うんは、暫くっていう意味やん、この場合。
恵　どこにも行ってないの？
浩之　うん。
恵　本当に？
浩之　うん。
恵　トイレも？
浩之　え、トイレ？
恵　そう、トイレも行ってない？
浩之　トイレには行ったかもしれんけど。
恵　行ったのね？
浩之　トイレと台所は別やろ。
恵　それならそう言えばいいでしょう。トイレと台所は行ったけど、それ以外はずっとここにいたって。
浩之　ずっと、やなくて暫く。
恵　え？
浩之　ずっとって言うたら、夜からになってまうんやろ？
恵　ああ、
浩之　せやから、ずっとやなくて暫く。
恵　そう。
浩之　もう一回、聞いて。
恵　え？
浩之　いつからここにいたかって。
恵　さっき聞いたじゃない。で、答えたでしょう。
浩之　ええから。
恵　嫌だって。
浩之　そんな事言わんと。
恵　言いたいこと忘れちゃったじゃない。
浩之　なあ、

恵　そうだ、思い出した。ねえ、トイレットペーパー。
浩之　え？
恵　なくなったなら交換してって、いつも言ってるでしょう。
浩之　ああ、
恵　トイレ行ったんでしょう？
浩之　うん。
恵　ちゃんと上にあるんだから。
浩之　なくなったらしてるって。
恵　してなかったじゃん。
浩之　してるよ。
恵　だから、なかったんだって。それとも、もしかしてあれ、残ってるうちに入るとでも思ってる？
浩之　少ないかなとは思ったけど。
恵　少ないと思ったんだったら、交換しておいてよ。次の人のこと考えたらできるでしょう。拓実じゃあるまいし。
浩之　でも、少しは残ってたから、捨てるのもったいないやろ？
恵　あの申し訳程度の一巻きが？
浩之　使えるんやから。
恵　みみちいこと言わないでくれる？
浩之　次から気をつけるわ。
恵　そうして。
浩之　なあ、せやから、聞いて。
恵　何を。
浩之　いつからここにいた？　って。
恵　まだ言う？
浩之　まだまだ言う。恵が聞いてくれるまで、何回でも言うで。
恵　しつこいなあ。
浩之　よう言われる。
恵　誰に？
浩之　誰にっていうか、
恵　職場でも言われてるの？
浩之　職場やなくて、
恵　誰？　友達？
浩之　友達やなくて、
恵　じゃあ、
浩之　恵。
恵　私？
浩之　よう言うやろ、しつこいなあって。
恵　・・・
浩之　やろ？　思い出した？
恵　やっぱしつこい。
浩之　ほら。
恵　いつからここにいたの？
浩之　え？
恵　言えって言ったの、浩之でしょう。
浩之　ああ。
恵　いつからここにいたのって。

浩之　せやなあ。ずっといたで、って言いたいところやけど、ずっと言うんはちょっと曖昧やからな。夜からここにいるわけやないし。暫くはここにいたで。トイレと台所を除いてやけど。ここ重要な、トイレと台所は除いてってところ。
恵　行ってくる。
浩之　え？
恵　拓実のお迎え。
浩之　ああ、もうそんな時間。
恵　歯医者の予約入れてるから。
浩之　土曜日でも歯医者やってるん？
恵　やってるところ見つけたの。
浩之　拓実君、虫歯あんの？
恵　忙しくて行けてなかったから。今日はずっと家にいるの？
浩之　ずっとっていうか、今日は、・・・ずっとかな。
恵　じゃあ、家で御飯食べるってこと？
浩之　うん。
恵　そう。
浩之　あ、面倒やったら、外に食べに行く？　三人で。
恵　かなり遅くなっちゃうけど。
浩之　え、ああ。
恵　歯医者だから。
浩之　うん。え、そんなに遅くなるん？
恵　帰ってすぐは食べられないし。処置してから３０分は食べたり飲んだりしたらダメなの。
浩之　へー。
恵　だから先に一人で食べてて、昼時過ぎちゃうだろうから。拓実には歯医者行く前におにぎり食べさせる。
浩之　歯磨きさせへんの？　歯医者行く前に。
恵　細かいこと気にするのね。
浩之　細かいことちゃうて。マナーやて、マナー。
恵　させます。歯医者のビルのトイレで。どうせ保育所から歯ブラシ持って帰らないといけないし。
浩之　トイレで磨くんか？
恵　トイレの手洗い場ね。個室で磨くわけじゃないんだから。
浩之　せやな。便器にむかってクチュクチュペッはせえへんよな。せやけど、トイレって、
恵　拓実が言ってたわよ。
浩之　何て？
恵　ちまちましいって。
浩之　チマチマしい？
恵　ちまちましてるってことでしょう。
浩之　俺が？
恵　他に誰がいるの？　「今のパパ、ちまちましいんよなー」って。
浩之　拓実君が俺のことを？
恵　言い得て妙よね。
浩之　どこがチマチマしいんやろか。
恵　５歳児にしては的確な表現だと思うけど。
浩之　消しゴム彫ってることとか？
恵　分かってるじゃない。

浩之　え、そういうこと？　チマチマした作業に没頭してるから？　それって「うちの母さん、刺繍に凝っててチマチマしい。」みたいな？　そういうこと？
恵　私に聞いてる？
浩之　え、うん。だって、拓実君、恵の息子やん。よう知ってるやろ？
恵　あなたの息子でもあるでしょう、今は。
浩之　そうやけど、よく知ってるかどうかでは、
恵　ちまちましいって刺繍には使わないわよ、きっと。
浩之　なんで？
恵　刺繍は優雅だから。
浩之　消しゴムはんこにだけ？
恵　そういうことじゃなくて、
浩之　前にプレゼントしたはんこ、驚いたんかな。
恵　拓実に消しゴムあげたの？
浩之　消しゴムやなくて、消しゴムはんこね、名前の。
恵　まだ五歳なのに。
浩之　もちろん平仮名にしたで、“さとうたくみ”って。
恵　知らなかった。
浩之　でも、まだ早かったよな。似顔絵にした方が良かったんかなあ。作り直そうかな。
恵　作らなくていいわよ。
浩之　でも、
恵　本人が欲しいって言ったわけじゃないんでしょう？
浩之　それはそうやけど、

恵、出ていく。

浩之　（恵に向かって）やけど、嬉しいかな思て、手作りのもんもろたら。さとうたくみ。拓実君だけのもんやで。自分のものにペタペタ押してええんやでって。

恵、戻ってきて、

恵　車、使うね。
浩之　・・・あ、うん。
恵　歯医者、駐車場あるから。
浩之　わかった。
恵　ご飯、本当に気にしないで一人で食べててね。

恵、出て行く。
一人残される浩之。

シーン・2

中古一戸建ての一室。二階の窓のあるリビング。
歌いながら、ストレッチをしている田淵彩夏。
そこに、掃除機をかかえた田淵将司がやってくる。

歌いながら、ここ（自分の近く）に掃除機をかけろと目とボディランゲージで指示する彩夏。

将司　なに？

彩夏、表情豊かに伝達。しかし、歌は続けたまま。

将司　そこ？

彩夏、歌いながら、満足気に足を上げる。
将司、掃除機のスイッチを入れ、彩夏の足の間に掃除機をかける。
彩夏、掃除機の音が聞こえるとともに、歌のボリュームをあげる。
掃除機を消すとともに、歌も終わる。

将司　これでいい？
彩夏　（ストレッチしながら）うん。
将司　ごみあった？
彩夏　ごみっていうほどやないんやけど、
将司　髪の毛とか？
彩夏　ちゃうちゃう。
将司　じゃあ、
彩夏　なんか小さくて固い粒みたいなん。
将司　粒？
彩夏　当たったらチクってしてん。
将司　最初にかけたんやけど、この部屋。
彩夏　ああ、うん。ありがとう。
将司　掃除機、吸い込み弱くなってるんよね、最近。
彩夏　そうなの？
将司　そんなことない？
彩夏　感じたことないけど。
将司　そろそろ寿命かもな。
彩夏　まだいけるんちゃう？
将司　前もこんな会話せえへんかった？
彩夏　そうやった？
将司　この前、電気屋で。
彩夏　そうやったかなあ。
将司　広告の品で１万になってたやつ、あったやろ？
彩夏　あったっけ？
将司　吸込仕事率５００Ｗで静かちゃんモードの。
彩夏　静か“ちゃん”て、
将司　「却下」の一言で終わったけど。
彩夏　しずかちゃんは却下やろ。
将司　あの一万円分の商品券どないしたん？
彩夏　え？
将司　町田さんの二次会でもらってきた、
彩夏　ああ、あれ？
将司　あそこの商店街でしか使えへんって、

彩夏　ああ、へへ。
将司　へへって、
彩夏　ドライヤー、新しくなってたやろ？
将司　え、でもあれは、
彩夏　そうやで。
将司　景品って言うてたやん。
彩夏　そう、くじで当たってん、だから３万のが１万円で貰えてん。
将司　貰ったわけちゃうやん。
彩夏　１万円で買えてん。
将司　１万円って。
彩夏　もとは３万はするやつやねん。それがお財布痛めずに手に入ってんで。
将司　商品券なくなってるやん。それにあれ、町田さんの二次会やで。町田さんの結婚式、
　行ったんは俺やんか。
彩夏　でも、私だって町田さんと知り合いやし。
将司　そういうんやなくて、
彩夏　ご祝儀出したのは二人からやん。
将司　それはそうやけど、二次会は、
彩夏　そりゃ、私は別の集まりで二次会行かれへんかったけど。
将司　二次会に出席して、ビンゴで当てたんは俺なんやから。
彩夏　二人で使おうって言うてたやんか。
将司　一緒に選ぼうって言う意味で、
彩夏　二人で一緒に使えばええやん。
将司　ドライヤーを？
彩夏　そう。将司君だって、頭洗うやろ？
将司　そういう問題やなくて、
彩夏　それより、あの商店街でしか使えへんっていうんが問題やってん。何買えっち
　ゅうねん。
将司　せやから、掃除機とか。家に必要なものを、
彩夏　ネットで買った方が安いもん。
将司　ドライヤーかて、
彩夏　あれはネットで安くなるようなもんちゃいます。高級品やねん。めっちゃ髪に優
　しいねんから。
将司　どないしよ。これ以上サラサラな毛になってもうたら。
彩夏　（無視して）町田さんってＮＰＯの理事長やっけ？
将司　え、理事長？
彩夏　そっか、やからか。町田さん、町興しイベントに力入れてるらしいねん。だから商品券。
将司　ああ、そう、今日電話あったで。
彩夏　誰から？
将司　また掛けるって。
彩夏　名乗らんかったん？　やとしたら、嫌がらせやな、最近たまにあんねん。
将司　嫌がらせ？
彩夏　気にいらんのちゃう、私のこと。
将司　なんで？
彩夏　チビのくせに本出しやがって、とか？
将司　チビは関係ないやろ。
彩夏　やっかみ、やっかみ。
将司　でも、名乗っとったで。

彩夏　そうなん？
将司　ごめん、よくある名前で記憶に残ってへんねんけど。野村やったか野口やったか、
　また掛けるって言うてたから。
彩夏　そう。
将司　知り合い？
彩夏　誰かわからんし。
将司　そうやんなあ。ごめん、名前覚えてなくて。
彩夏　ええて。どうせただのやっかみやろうから。
将司　最近、彩夏さん仕事しすぎちゃう？
彩夏　んなことないよ。今かて家でゆっくりしてるし。
将司　久しぶりやんか、休みの日に家におんの。夜かて仕事終わって、そのまま次の用事
　に行ってるし。
彩夏　まあ、人に会ってるだけやねんけどな。次から次に出てくるんよ、会っといた方が
　ええ人が。
将司　会っといた方がええって、打算的やなあ。
彩夏　打算とか言わんといてよ。
幸助　会いたい人やろ？
彩夏　会いたいとかやないんやけど、こういうんは縁のもんやし。
将司　また本出すん？
彩夏　え？
将司　人にいっぱい会ってるってことは、本出すんかなって。
彩夏　ああ、
将司　もう出さへんの？
彩夏　いや、いつかは出すかもしらんけど、
将司　けど？
彩夏　けど、今、人と会ってるんは、本のためやなくて、
将司　なら、
彩夏　今までとはジャンルが全然違うんやけど、
将司　健康関連やなくってこと？
彩夏　エアロ関連でもなく。
将司　筋トレやないってこと？
彩夏　筋コン。
将司　キンコン？
彩夏　筋コン言うてるやん。筋コンディショニング。
将司　一緒やん。
彩夏　選挙出ようと思って。
将司　は？
彩夏　選挙。
将司　選挙？
彩夏　政治家になろう思うねん。
将司　え、政治家って、
彩夏　うん。
将司　参議院、衆議院とかのあの政治家？　彩夏さんが？
彩夏　国会ちゃうよ、市議会議員。来年あんねん、市議会議員の一般選挙が。
将司　なんで？
彩夏　なんでって言われても、
将司　今までそんなこと言ったことなかったやん、政治家になりたいとか。

彩夏　ＮＰＯは作りたかったで。
将司　ＮＰＯと市議会議員はちゃうやん。
彩夏　そうかなあ。
将司　そうやろ。非営利と権力やで。
彩夏　市議会議員は権力ちゃうて。
将司　権力やろ。せやからみんな懇願に行くんやろ。ＮＰＯは懇願する側で、議員はされる側やん。
彩夏　叶えたい願いがあって、それを実現しようとするんは、一緒やん。
将司　一緒やったら、なんで市議会議員なん？　ＮＰＯでええやん。
彩夏　反対ってこと？
将司　え？
彩夏　将司君は反対ってこと？　私が選挙出るん。
将司　反対とか賛成とかやなくて、
彩夏　家族が反対してる新人は、必ず落ちるらしい。
将司　必ずって、もしかして脅してる？
彩夏　いくつになっても自分の力で自分を作れる社会にしていきたいねん。お年寄りや女性や障がい者の生きやすい社会にしたいんよ。どんな人でも外に出て、新しいものと出会う権利があるんやから。誰もひきこもることのない社会にしていきたいねん。
将司　エアロビの力で？
彩夏　ちゃうわ、政治の力で。まずは自分の町から変えていきたいの。うちの市で、女性の市議会議員が何人いるか知ってる？
将司　知らんよ、そんなん。
彩夏　やろ？
将司　っていうか、市議会議員が全部で何人おるんかさえも知らん。
彩夏　たったの４人やねんで。一割しかおらんねん。おかしいやろ？　なんで半分やないんよ。障がい者の議員もおらんねんで。障がい者の数が少ない言うても、どっかには議員がいてもええやん。いるべきやん。
将司　彩夏さんは障がい者ちゃうやろ。
彩夏　そやけど。
将司　お姉さんの代理選挙とでも言うつもりなん？
彩夏　家族に障がい者がいる議員はおると思う。でも、みんなそれを売りにできないからアピールしてへんのよ。でも、私はアピールしたいねん。女性であることと同じように、姉が障がい者であること、パートナーが専業主夫であること。
将司　え、俺専業ちゃうし。
彩夏　似たようなもんやん。
将司　働いてるし。
彩夏　私の扶養家族やん。
将司　それでも働いてるし、必死に。嫌や思いながらでも、働いてんねん。
彩夏　辞めたらええやん、コンビニなんか。そうしたら専業やし。専業主夫かっこええやん。今の時代の最先端やんか。
将司　俺のことまでアピールすんの？
彩夏　アピールできる材料はなんでも使わな。
将司　彩夏さんにとって、俺もお姉さんもその程度の存在やねんな。
彩夏　その程度って、
将司　好きにしたらええんちゃう。
彩夏　将司君？
将司　別に反対してるわけやないから。そんなことできる立場でもないし。

彩夏　立場って、
将司　ちょっと出てくる。
彩夏　え？
将司　買い物。
彩夏　ああ、うん。
将司　主夫は家事せんとな。
彩夏　そういう意味で言ったんやないて、
将司　適材適所なんやろ？　彩夏さんの口癖。まあ、家事好きなんは事実やし。

将司、出ていく。

彩夏　将司君は知らんから言えんねん。

彩夏、将司の出て行った先を見ている。

シーン・3

賃貸アパートの一室。窓のあるリビング。
飯塚直樹と楠根結花が座っている。
直樹はお酒を飲みながら、爪を切っている。

結花　何か敷いてる？
直樹　え？
結花　爪切ってるんでしょう？
直樹　うん。
結花　飛び散ったの集めるの面倒だから気をつけてよ。
直樹　掃除機かければいいじゃん。
結花　かけてくれる？
直樹　え？
結花　直樹が。
直樹　いいよ。
結花　じゃあ、爪切ったらスグにかけてね。
直樹　スグ？
結花　だって、そうしないと意味ないじゃない。
直樹　それは嫌だなあ。うん、嫌だなあ。
結花　じゃあ、雑誌とかの上にしてね。
直樹　してる、してる。
結花　そうなんだ。
直樹　結花がそう言うだろうなと思って。
結花　ちょっと、それ私の雑誌じゃない。
直樹　あ、ばれた？
結花　もう。
直樹　ねえ、なんで足の指ってこんなに短いんだろう。
結花　足の指？

直樹　どうして手みたいに長くないんかなあ。
結花　直樹、長いじゃない。
直樹　長くないよ。
結花　長い方だと思うけど？
直樹　結花は？
結花　私？
直樹　どんな形してたっけ？
結花　普通。
直樹　見せて。
結花　え、ヤダ。
直樹　なんで？
結花　だってイヤなもんはイヤなの。
直樹　普通なんでしょう？
結花　そう思ってるけど、
直樹　まさか水虫とかでもあるの？
結花　あるわけないでしょう。
直樹　じゃあ、
結花　爪、切ったなら早く捨ててね。
直樹　あ、うん。
結花　匂ったりしないでよ。
直樹　え、匂う？
結花　集めて。
直樹　しないしない。
結花　明日だからね。
直樹　え、何が？
結花　予約。
直樹　予約？
結花　忘れたの？
直樹　明日って日曜日だよね。
結花　そう。
直樹　えっと、映画？
結花　映画？
直樹　違う？
結花　直樹、見たい映画あるの？
直樹　いや、ないけど。
結花　ないのに、なんで映画なのよ。
直樹　じゃあ、結花の美容院？
結花　は？
直樹　予約って言ったら。あ、もしかしてマッサージ？
結花　なんで、わざわざ私の美容院やマッサージの予約を、直樹に前日確認するのよ。
直樹　デートできないよって？
結花　いつもデートなんかしてた？
直樹　いや、
結花　休みって言っても、まったりしてるだけじゃない。
直樹　まったりできないよって。
結花　そんなために前日確認いたしません。
直樹　じゃあ、外出ってこと？

結花　そう。
直樹　ああ、そっか、そっか。
結花　ちゃんと言っておかないと、直樹出掛けないじゃない。
直樹　出掛ける、出掛ける。
結花　チョイひきこもりのくせに？
直樹　チョイだから、チョイ。
結花　まあ、いいや。とにかく予約は１０時だから。そうだ、靴下ちゃんとしたのにしてね。
直樹　穴空いてないのに。
結花　え、靴下？
直樹　薄くなってるの多いでしょう。穴空いたら恥ずかしいから。って言うか、終わったら靴下買って帰ろ。私も厚手のカラータイツ、新しいの欲しいし。
結花　誰かの家に行くんだっけ？
直樹　本当に思い出せない？
結花　もしかして結花の両親とこ？
直樹　行きたい？
結花　行きたくない。
直樹　行きたくない、言うな。
結花　ごめん。
直樹　ごめん、も言うな。
結花　だって、
直樹　だって、も言うな。
結花　俺の（せいで）、
直樹　俺の、も言うな。
結花　じゃあ、
直樹　じゃあ、も言うな。
結花　@@@@（何かしょうもない事を）
直樹　モデルルーム。
結花　え？
直樹　予約するねって話したでしょう。
結花　モデルルーム？
直樹　先週ぐらい？
結花　そうだっけ？
直樹　あ、お酒飲んでて覚えてないな。
結花　そんなことない、覚えてる。覚えてる。
直樹　本当？
結花　覚えてるはず。
直樹　ポストに入ってたチラシ見て、直樹が言ったんだよ、「見たいな」って。
結花　俺が？
直樹　興味あるって。
結花　モデルルームって、新築のだよね？
直樹　そう、（窓の外を指さして）あそこのマンション。
結花　え、あれ？
直樹　先月まで工事してた。
結花　あそこを俺が？
直樹　どうせ買えないのにって言ったら、見るのはタダだからって。
結花　見たいなって？
直樹　そう。

直樹　覚えてないなあ。
結花　やっぱり。でも、もうキャンセルできないからね、明日なんだから。
直樹　すっぽかしちゃう？
結花　直樹、
直樹　だって、
結花　このひきこもりが、
直樹　でもさあ、
結花　ダメよ。担当者、私の大学の同級生と知り合いなんだから。
直樹　そうなの？
結花　うん。
直樹　その話も聞いてた？
結花　ううん、これは今初めて。だって知ったの昨日だもん。予約確認のメールに書いてあったの。
直樹　マジかよー。
結花　いいじゃない。直樹の知り合いなわけじゃないんだから。
直樹　それはそうだけど、
結花　というわけだから、明日は９時起きね。
直樹　９時でいいの？
結花　だって、こんなに近く、というか目の前なんだから。５分前に出れば余裕でしょう。
直樹　いいのかなあ。
結花　大丈夫だって。道に迷いようもないんだし。
直樹　お金ないのに。
結花　電車乗るわけでもないんだから。
直樹　恥ずかしくない？
結花　何が？
直樹　自分の彼氏がこんなんだってバレるの。
結花　こんなんって直樹のこと？
直樹　うん、こんなん。
結花　どんだけ自己評価低いのよ。
直樹　自己評価とかじゃなくて、事実だから。だって、モデルルーム行ったら絶対アンケート書かされるだろう？
結花　だろうね。
直樹　名前、年齢、住所、職業、それに年収。
結花　あと、家族構成と現在の住まい？
直樹　悲惨さ倍増だね。
結花　どうして？
直樹　年下彼女に寄生中、新築目の前の安アパート住まい、４２歳、フリーター、年収２００万未満。
結花　そういうとこだけ真面目なんだから。本当のこと答えなきゃいいでしょう。
直樹　嘘書けってこと？
結花　嘘とまでは言ってないけど、少しぐらい盛ったってバチ当たらないわよ。
直樹　３１を２８歳にするぐらいの盛りじゃあ、変わらないよ。
結花　どうして私が２８って書いてること知ってるのよ。
直樹　彼女と同棲中、目の前の賃貸住まい、３９歳、派遣社員、年収３００万未満。
結花　お、ちょっと格上げされたんじゃない？
直樹　嘘だし。それに、格上げされても貧民だし。
結花　大丈夫。相手は営業なんだから、優しく接してくれるって。

直樹　ただの冷やかしだってバレバレだから、優しくあしらってくれるって？
結花　冷やかしって思われた方が営業されなくて、楽じゃない。
直樹　結花は恥ずかしくないんだ。
結花　何が？
直樹　いや、
結花　中年男と同棲４年、転がり込まれて家賃負担中、３１歳、フリーター、年収２００万ちょい。
直樹　２００万ちょいは、３００万未満でいいだろ。
結花　３００万弱と２００万ちょいでは、大きな違いじゃない。月２５万か月１７万かよ。
直樹　おお、
結花　二人ともが月２５万稼いでたら、月５０万なんだから、マンションぐらい買えるじゃない。
直樹　リアル「フリーター、家を買う」だね。
結花　とにかく、明日、直樹の嫌いなお出掛けですから。
直樹　りょーかいウォッチ。
結花　古っ。
直樹　もしかして結花、マンション買いたいの？
結花　え、
直樹　なんか軽いノリじゃない気がして、
結花　そう？
直樹　いつもの結花と違うっていうか、
結花　どんだけ普段が軽いのよ。
直樹　この部屋に飽きたとか？
結花　飽きたわけじゃない。けど、引っ越しは考えてる。
直樹　そうなの？
結花　いつまでも転がり込まれたままはね、
直樹　家賃のことだったら、もっと、
結花　子ども産もうと思って。
直樹　え？
結花　子ども。
直樹　そうなの？
結花　どうするか考えておいて。
直樹　え、え、
結花　今すぐ返事欲しいわけじゃないから。
直樹　欲しいの？
結花　だから、今すぐじゃなくていいから。
直樹　いや、返事じゃなくて。
結花　まあ、あんまり遅いと間に合わないけど。
直樹　あ、やっぱり。
結花　はい、この話題終わり。お風呂入ってくる。
直樹　あ、え、
結花　お酒、ほどほどにしてよ。

結花、出て行く。

直樹　だから、結花お酒飲んでなかったってこと？
結花　（奥から）なんて？

直樹　なんでもない。
結花　明日、酒臭いのもヤダからね。

直樹、手にしているお酒を飲む。

シーン・4

突然、ヒーローものの音楽が鳴る。
現れ出る三人のヨレヨレのヒーローたち。
直樹はスーパーマン。将司はピーターパン。浩之はルパン３世。

直樹　Yes, I am superman!!!
将司　必要なのは、ただ信じる事さ。
浩之　道がなけりゃ作っていくまでよ。
直樹　時には、とにかく自分を信じて挑戦しなければならないんだ。自信なんてものは後から付いてくるんだから。
将司　飛べるかどうかを疑った瞬間に永遠に飛べなくなっているんだ。
浩之　怖いのは、死ぬことじゃなくて、退屈なことなんだ。

自らをカッコいいと信じて疑わない表情と立ち姿の三人。

直樹　やあ、僕はスーパーマン。ところで君は？
浩之　見て分からないのかい？　次元、五右衛門、聞いたかい？　笑っちゃうよな。この俺様を見て、世界のルパン３世だと分からないなんてな。変装が上手過ぎたかな。しょんべん臭い、お前さんこそ、一体どこの誰だい？
将司　ルンペンのような汚い大人と一緒にしないでくれよ。僕は永遠の少年ピーターパンさ。
直樹　まあいい。真のヒーローとは、どんな障害に直面しても辛抱し、耐え抜く力を持っている、普通の人間であるんだからな。
浩之　そうさな。自由ってのも、結構面倒なもんでよ。いつも自由でいるためには、やんなきゃなんねぇしんどいことだってあんだよ。
将司　飛べるかどうかを疑った瞬間に永遠に飛べなくなっているんだ。
直樹　さっきもその台詞聞いた気がするんだが。
将司　いいだろう。おじさんたちには関係ないだろ。
浩之　もしかして、他の名台詞を持ってないんじゃないのか？
将司　あるよ。あるに決まってるだろ。
浩之　じゃあ、言ってみな。
直樹　聞こうじゃないか。
将司　さよならを言ってはだめだ。なぜならさよならは去ることを意味し、去ることは忘れることを意味するんだから。
浩之　おいおい、もうさよならかよ。
将司　え、
直樹　そういう台詞は最後にしなくちゃ。
将司　だって、

浩之　じゃあな、おっちゃん、あばよ。
将司　おっちゃんじゃないって。
浩之　俺のように薄汚れちゃいけないんだよ。
直樹　いいか、大切なのは、自分がどんな人間に育ちたいのか決めることだ。それがどんな人間であれ、世界を変えることができるのだから。
将司　世界なんて変えなくていいんだけどね、僕は。
浩之　怖いのは、死ぬことじゃなくて、退屈なこと。
将司　うん。それは賛成。
浩之　夢盗まれちまったからな。取り返しに行かにゃ。
将司　何言ってるの？　夢は盗まれたり盗んだりなんかできるものじゃないよ。自分の中にあるものなんだから。
直樹　Yes, I am superman!!!
浩之　なっ、お前さんの人生はこれから始まるんだぜ。
直樹　Yes, I am superman!!!

三人はそれぞれのやり方で、見えない敵（自分）と戦いだす。
暗転。

シーン・5

彩夏の家に恵が座っている。恵は部屋を興味深そうに眺めている。
ラインが入ったらしい。携帯を取り出して見る恵。

恵　（つぶやき）遅いって、もう。

彩夏が飲み物を持ってやって来る。

彩夏　お待たせしました。
恵　いえ、
彩夏　さんぴん茶しかなくて。
恵　すみません。
彩夏　無難に麦茶とかあれば良かったんですけど、
恵　ありがとうございます。お気遣いなく。
彩夏　それとも暖かいのにします？
恵　本当に何でも。ご迷惑をお掛けしたのはこちらですし。
彩夏　迷惑やなんて、
恵　でも、
彩夏　子どものしたことやないですか。
恵　本当に申し訳ありませんでした。
彩夏　拓実君に怪我がなくて何よりです。
恵　大切なお車に傷をつけてしまって、申し訳ありません。
彩夏　そんなに謝っていただかなくても、
恵　でも、うちの子のせいで、
彩夏　わざとやないんですから。拓実君のこと、あまり叱らないであげてください。

恵　あの、今、拓実は、
彩夏　上に。夫と一緒に三階にいるかと。ゲームをして遊ぶと言ってましたから。先日夫が買ったゲームがあって、そのゲームが拓実君のやってみたかったものみたいで。二人で楽しそうに上がっていきました。
恵　ご主人様にまでご面倒をお掛けしてしまって。
彩夏　いえ、拓実君を引き留めたのは、うちの方ですから。子どもと遊んでみたかったんです。うちはまだ子どもがいないので。
恵　いいご主人様ですね。
彩夏　え、ああ。
恵　せっかく遊んでいただく子が、うちの子でいいのかどうか。ただの暴れん坊なので。
彩夏　そんなこと、
恵　今回のことだって、元はと言えば、あの子が勝手にマンションを飛び出したから。
彩夏　久しぶりのお天気やったから。
恵　我慢できないというか。どんなことでも待つっていうことができないんです。自転車だって、一人じゃ乗っちゃいけないって言ってたのに。
彩夏　でも、さっきまでお母さんが来るまでいい子で待ってくれてましたよ。
恵　それは遊んでいただいているからで。
彩夏　ほんまは不安やと思うんですよ。怪我はしていないと言っても、どこかをぶつけてはいるやろうし、痛いの我慢しているんかと。
恵　反省もしてくれてるといいんですけど。
彩夏　ちゃんと謝ってくれましたし。
恵　どこまで理解しているか。
彩夏　あの、言いづらいんですけど、
恵　はい。
彩夏　お子さんの賠償責任保険は加入されてます？
恵　賠償責任保険、
彩夏　車の損害なので、うちの車両保険を使うこともできるんですが、そうすると警察を呼ばないといけなくて。
恵　警察ですか、
彩夏　事故届けっていうんですか、それをしないといけないので。
恵　ああ。
彩夏　でも、そうしたところで、駐車場に停まってた場合、うち側の責任は０％になるはずなんです。そうすると拓実君が１００％の過失になるので、
恵　申し訳ありません。
彩夏　結局は拓実君のお宅の負担になるので、うちの保険に連絡しても意味がないかと。もしそちらが個人賠償の保険に入られてるんでしたら、それが使えるはずなんですけど。その場合も警察の証明がいるのかどうか、
恵　はあ、
彩夏　自転車事故などをカバーする保険なんですが、
恵　すみません、そういった保険に入っているかどうか、私ではわからなくて。さっき主人にも聞いてみたんですが、今すぐには分からないようで。
彩夏　じゃあ、どうしましょう。念のため呼んでおきます？
恵　警察をですか？
彩夏　それとも個人賠償の保険に入っているかどうか確認してからにされます？　もし入っていなかったら、事故証明も何もいらないと思うんです。
恵　そうさせてもらえると助かります。
彩夏　はい。

恵　お茶いただきます。
彩夏　平日はお忙しくされてるんですか？
恵　え、私ですか？
彩夏　はい。
恵　忙しくというか、
彩夏　拓実君が保育所ということは、お仕事を、
恵　毎日じゃないんですけど、仕事があるときに。
彩夏　仕事がある時、
恵　イベントに派遣されるので、いつあるとか決まってるわけじゃないんです。
彩夏　じゃあ、週に１，２ぐらいとか、
恵　そういう時もありますし、週４とかも。えっと、それは、
彩夏　ごめんなさい、突っ込んだ事を聞いてしまって。
恵　いえ、
彩夏　実はお手伝いをしてくださる方をちょっと探していて、
恵　お手伝い、
彩夏　あ、お手伝いと言っても、きちんと謝礼はお支払いしますので。
恵　子どもの世話とかで時間が自由になるわけじゃないんですけど。あ、新しくできたあのマンションの方とか、
彩夏　え？
恵　適任な方がいらっしゃるんじゃないかと。専業主婦ですと、時間も自由がきくでしょうし。
彩夏　そうですね、そちらも考えてみます。でも、まだ先のことなので、来年の話で。
恵　そうなんですね、
彩夏　それに、今はまだ、何もお話できるほど進んでいなくて。ただ、村上さんのような綺麗な華のある方にご協力いただけたら心強いなと。
恵　そんな。私にできることなんてほとんどないですけど、できる事でしたら、
彩夏　また具体的になってきたら、ご相談させてください。
恵　はい、もちろん。
彩夏　ちなみに、支持政党とかってあります？
恵　政党ですか？
彩夏　はい。
恵　公明党とか？
彩夏　公明党ですか？
恵　いえ、これと言って決まったのは、
彩夏　そうなんですね。

将司がやって来る。

将司　こんにちは。
恵　お邪魔しています。
将司　いえ。
彩夏　拓実君は？
将司　上。疲れたみたいで、ゲームの途中で寝ちゃって。
恵　すみません。
将司　いや、こっちこそ疲れさせるまで遊ばせてしまって。
恵　いつもこの時間は昼寝の時間なので、だから、
将司　本人はもっとゲームやりたかったみたいで。眠気と格闘してました。ゲームの敵や

なくて。
恵　ご迷惑を掛けてしまってすみません。
将司　こっちこそ一緒にしてもらえて楽しかったです。大人になると人とゲームすること
なんてないので。
彩夏　拓実君、起こさずに下ろせそう？
将司　話終わったん？
彩夏　うん。
将司　（恵に）向かいのマンションでしたよね？
恵　あ、はい。
将司　じゃあ、抱っこしてそのままお連れしますね。
恵　え、それは、
将司　それとも動かすとスグ起きちゃいます？
恵　それは大丈夫なんですけど、
将司　なら、
恵　私が抱っこします。
将司　でも、重たいでしょう。
恵　いつも抱っこさせられてるので。ご主人様に抱っこで送らせることなんてできません。
彩夏　そんなに気を使わないでください。ご近所なんですし。
恵　上、上がらせていただいていいですか？
将司　あ、はい。拓実君、上がった右の部屋にいます。
恵　はい、右ですね。

恵、出て行く。

彩夏　本当に寝てんの？
将司　本当って？
彩夏　ゲームしながら？
将司　寝てからはゲームしてへんけど。
彩夏　恐るべしやね、子ども。
将司　彩夏さんみたいよな。
彩夏　私？
将司　スグ眠るし。
彩夏　私は好きなことしながらは寝えへんて。
将司　欲望に忠実。
彩夏　私が？
将司　ちゃうの？
彩夏　否定はせえへんけど。
将司　やろ？
彩夏　将司君、子ども好きやんな。
将司　好きやけど、
彩夏　ねえ、子ども育てようか。
将司　え？
彩夏　今ならまだ育てられると思うねん。
将司　今言う？
彩夏　そやな。早う手伝ってこなな。ご主人様お願い。
将司　きもいわ。
彩夏　同感。ご主人様て、

将司　彩夏さんが言うと。
彩夏　私が？

将司、出て行きかけて、

将司　彩夏さん、ずるいで、それは。
彩夏　え？
将司　今言うん。
彩夏　ずるい？
将司　打算的すぎる。

将司、出て行く。
一人残る彩夏。

シーン・6

結花の家に浩之が座っている。浩之は居心地悪そうである。
ラインが入ったらしい。携帯を取り出してみる浩之。

浩之　（つぶやき）人使い荒いんやから。

直樹がやって来る。

直樹　ありがとうございました。
浩之　いえいえ。
直樹　助かりました。
浩之　いえ。
直樹　重かったでしょう？
浩之　いえいえ。
直樹　アパートなんで、エレベーターがなくて。
浩之　いえ。
直樹　三階まで階段じゃあ大変だったかと。
浩之　いえいえ、・・・あ、僕、さっきから「いえ」しか言ってませんね(笑)。
直樹　ああ、
浩之　いえ、いえいえ。

「いえ」を繰り返す浩之に反応できない直樹。

浩之　（困って）ねえ、
直樹　え、
浩之　ねえ、
直樹　はい、えっと、
浩之　いえ。
直樹　あのぅ、話し聞いてもいいですか？

浩之　あ、はい。
直樹　あの、結花はどこに、
浩之　ああ、入口に。このマンションの入口に倒れていて、
直樹　入口、
浩之　倒れていたというか、うずくまっていたというか。辛そうにしてはったので、声掛けたんです。そしたら、このマンションやって言うんで。
直樹　そうだったんですね。
浩之　玄関でお暇しようと思ったんですけど、ちょっと待っててほしいと言われまして、
直樹　それで、
浩之　はい、それで、為す術もなくここに。さっさと帰れば良かったんでしょうけど、そうすれば、飯塚さんを驚かせることもなかったんでしょうけど、
直樹　いや、
浩之　帰りたくても、寝室に声掛けるのはさすがに気が咎めて。
直樹　こちらこそ驚かせてすみません。
浩之　いえ、僕の方が激しく驚いてしまって。飯塚さんが驚かれるのは当然かと。僕かて、帰ってきて自分の家のリビングに知らない男が一人座っていたら、襲い掛かるかもしれません。
直樹　襲い掛かる、
浩之　それか、逃げ出すか。
直樹　逃げ出す、
浩之　はい、脱兎のごとく。
直樹　うさぎ、
浩之　はい。
直樹　・・・大丈夫ですか？
浩之　え？
直樹　頭。
浩之　ああ、
直樹　痛かったんじゃ、
浩之　ああ、まあ、
直樹　すみません。
浩之　いえ。
直樹　かなり大きな音が。
浩之　あんなに派手に後頭部を打ったのは、小学生以来です。どうしてソファーの上に立ってしまったのか。立ちさえしなければ、あんなに強く打たなかったのに。というか、落ちなかったのに。
直樹　なんで踊ってたんですか？
浩之　え、
直樹　ソファーの上で仁王立ちになって、それで、こう踊りを、
浩之　こうやなくて、こうです。河内音頭なんで。
直樹　はあ。
浩之　不審者やないことをアピールしようと思ったら、身体が勝手に、
直樹　勝手に、
浩之　充分に不審者ですよね。
直樹　踊っていると余計に、
浩之　・・・あの、大丈夫ですか。
直樹　え、僕ですか？　あなたじゃなく。
浩之　え、僕？

直樹　え、だって、
浩之　いえ、そうやなくて、えっと、奥さまは、
直樹　ああ、
浩之　意識も、
直樹　はい。
浩之　良かった。
直樹　会話も普通にできてるので。
浩之　それは良かったです。
直樹　ご心配お掛けしました。
浩之　いえ。なら、僕はここで。
直樹　あ、ちょっと、
浩之　え、
直樹　ちょっと待っていてもらえませんか？
浩之　待つ？
直樹　結花が、あ、彼女がお礼を言いたいそうで。
浩之　ああ、彼女さん、
直樹　スグこっちに来ると言っていたんですけど。
浩之　ご無理なさらず。僕はここで。

結花がやって来る。

結花　すみません。
浩之　あ、先ほどはどうも。
結花　こちらこそ、本当にありがとうございました。
浩之　いえ。
結花　部屋まで連れて来ていただいて。
浩之　大丈夫ですか？
結花　はい、もう大丈夫です。いつの間にか眠ってしまったみたいですみません。
浩之　いえ、こちらこそ長居してしまって。救急車を呼んだ方がいいのか、このまま
　にして帰った方がいいのか、悩んでしまって。
結花　ご心配お掛けしてすみませんでした。
浩之　そしたら、飯塚さんが、
結花　みたいですね。音で目が覚めたので。
浩之　ああ、あの音、
結花　そこからの会話は聞いています。
浩之　お恥ずかしい。
結花　お近くにお住まいなんですか？
浩之　え、
結花　マンションの前にいらっしゃったってことは、
浩之　あ、はい。（窓の外を指して）あそこのマンションです。
結花　あの新築の？
浩之　あ、そっちやなくて、その横の。
結花　茶色のですか？
浩之　そうそう。ちょっと前までは陽当たりが良かったんやけどね。
直樹　ああ、
浩之　こっちは、
直樹　うちは北側になるんで。

結花　陽当たりに影響はないですけど、やっぱり圧迫感はありますよね。
浩之　２０階建てやから。住民が増えるのはいいことなんやけど。
結花　賑やかになりそうですね、子どもとかも増えて。
浩之　広い部屋ばっかりなんかな、４ＬＤＫとか５ＬＤＫとか。
結花　３ＬＤＫが基本みたいですよ。
浩之　あ、そうなんですか？
結花　はい。
浩之　普通のファミリーサイズなんやね。
結花　モデルルーム行ってきたんです。
浩之　モデルルームですか。どうでした？
結花　綺麗でした、って当たり前ですね、新築なんだから。広いなって感じました、私たちからしたら。一部屋一部屋の大きさも広く感じたし。それに、三部屋プラス、リビイグダイニングがあるのはいいなと。
浩之　家族で暮らすには、それぐらいはって思ってまうけど、二人ですとね。
結花　子どもいると３ＬＤＫでも狭いですか？
浩之　そうですね、うちも３ＬＤＫなんですけど、５歳の男の子と暮らしてると、もう一部屋あったらなあって思ってまいますねえ。小学生になって子どもの部屋をとか考えると、特に。
結花　お子さん、５歳なんですね。
浩之　あ、ええ。
結花　可愛い盛りなんでしょうね。
浩之　え、
結花　５歳って。
浩之　うん。そうかな。
結花　あ、もしかして、赤ちゃんの頃とは違って憎らしいとか？
浩之　え、
結花　男の子ってやんちゃなんですよね？　３歳ぐらいからはすごいって。
浩之　まあ、
直樹　結花、
結花　なに？
直樹　大丈夫？
結花　え、
直樹　しんどかったら寝てたら？
結花　ああ、ありがとう。でも、もう大丈夫。（浩之を見て）えっと、この方に助けてもらった時はしんどかったけど。あの、すみません、お名前聞いていなくて。
浩之　あ、僕ですか？
結花　はい。お世話になったのに。
浩之　佐藤、佐藤浩之です。
結花　楠根結花です。
浩之　くすねゆか、さん。
結花　はい。
直樹　結花、
結花　え、
直樹　そろそろ、
結花　何？
直樹　何って、
結花　ああ、（浩之に）こっちは飯塚直樹です。同居人です。

浩之　あ、はい、お名前は。
直樹　（結花に）そうじゃなくて、
結花　同居人じゃダメ？　パートナーとかが良かった？
直樹　そうでもなくて、
結花　じゃあ、田舎から出てきた兄とか？
直樹　それは嘘だろ。
結花　自称夢見る自由人とか？
直樹　俺のことじゃなくて、
結花　だね。もうすぐ同居人じゃなくなるもんね。
直樹　え？
結花　で、何のこと？　直樹の紹介のことじゃないなら、何？
直樹　もうすぐ同居人じゃなくなるって、
結花　その話はもういいから。
直樹　よくないって、
結花　後でいいでしょう。直樹、先延ばしするの得意じゃない。
直樹　先延ばし？
結花　決めなくてすむなら、何にも決めたくないんでしょう？　逃げ続けることができるなら、どこまででも逃げたいくせに。
浩之　あ、僕はここらへんで、
結花　ちょっと待ってください。まだお礼もできていないので、
浩之　お礼なんて、そんなもんは、
結花　最低限のお伺いしたいことも終わってないので。
浩之　最低限、
直樹　結花、
結花　何よ。
直樹　助けてもらった人、拉致してどうするんだよ。
結花　拉致なんかしてない。
直樹　プライベートまで詮索して、何をどうお礼したいって言うわけ？
結花　詮索なんかしてないでしょう。お礼するにも、名前と住所聞かないとできないじゃない。
直樹　名前はもう聞いただろ。住所だって、
結花　向いの茶色のマンションだってことしか知らない。
直樹　名前聞いたんだから、郵便ポストでも見れば分かるだろ。
結花　その方が探ってるみたいで嫌じゃない、まるで探偵みたい。
直樹　そんなことないよ。
結花　それに、斎藤なんて、いっぱいある名前なんだから、マンションに二家族だってあるかもしれないでしょう。
浩之　佐藤です。
直樹　どれだけ大きいマンションなんだよ。同じ苗字が二つもあるって。
結花　うちよりは断然大きいじゃない。
浩之　あの、佐藤です。
直樹　いくら１０階建てって言っても、せいぜいワンフロアに３部屋で、３０部屋ぐらいなんだから。
結花　それでも、三階建てのうちのマンションとは比べ物にならないじゃない。
直樹　うちはマンションじゃないだろ。アパートだって。
結花　似たようなもんでしょう。
直樹　３０部屋もあるマンションと、うちが似てると思うの？

浩之　いえ、２８部屋です。
直樹　え？
浩之　１０階はワンフロア全部、成宮さんのお宅ですから。３部屋×９、プラス１部屋で２８部屋です。
結花　ワンフロア全部って広いんですね、成宮さん。
浩之　因みに、因みにというか、僕は斎藤ではなく、佐藤です。６０１号室の。
結花　ああ、佐藤さん、
浩之　はい。
結花　失礼しました。
浩之　いえ。

無言になる三人。

浩之　いえいえ。
直樹　あの、
浩之　あ、僕はここで。
直樹　あ、はい。
浩之　お邪魔しました。
直樹　そんな、こちらこそ、
結花　ありがとうございました。
直樹　失礼しました。
浩之　いえ。じゃあ。

浩之、出て行く。結花も玄関までと出て行く。
結花、戻ってくる。

直樹　大丈夫？
結花　え？
直樹　休まなくていい？
結花　ああ、うん。
直樹　しんどいんじゃないの？
結花　うん、休む。
直樹　ああ、やっぱりそうだよね。そういう時期なんだよね。
結花　疲れた。
直樹　あの、さっき結花が言ってた、
結花　（落ちているものを見つけて）あ、忘れ物。
直樹　え？
結花　斎藤さん、じゃなくて佐藤さん。
直樹　ああ。
結花　どうしよう、また今度でいいか。
直樹　重要なものじゃなさそうだし。
結花　お礼に行く時にでも渡そ。

結花、寝室へ向かう。

直樹　なあ、
結花　・・・何？

直樹　別れたいの？
結花　え、
直樹　もうすぐ同居人じゃなくなるって、
結花　直樹はどうしたいの？
直樹　俺は、
結花　っていうか、同居人じゃなくなるってことは、別れるってことになるんだね、直樹には。
直樹　え？
結花　もういい。とにかく今はこの話は終わり。
直樹　結花、
結花　でも、何があってもパパにはなってもらうから。
直樹　うん、
結花　たとえ、どうなっても。
直樹　え？

結花、出て行く。
取り残される直樹。

シーン・7

くたびれたお姫様姿の三人が踊りながら現れる。
どうやら三人はシンデレラのようである。

彩夏　私の王子様はどこ？
恵　私の王子様はどこ？
結花　私の王子様はどこ？
彩夏　（結花に）あなたの王子様はお城でお留守番じゃなくって？
結花　そうでしたわ。（恵に）あなたの王子様もお城でお留守番じゃなくって？
恵　そうでしたわ。（彩夏に）あなたの王子様もお城でお留守番じゃなくって？
彩夏　そうでしたわ。それなら、
結花　それなら、良かった。
恵　思う存分お喋りできるもの。

自らを可憐で清純であると信じたい表情と立ち姿の三人。

結花　まずは何のトークから始めます？
彩夏　やっぱりここは、王子様自慢じゃなくて？
恵　賛成。まずはあなたの王子様のことから聞かせていただけません？
彩夏　私の王子様？
恵　いいかしら？
彩夏　私の王子様はとってもスリムで、どんな細いスペースにも身体を滑り込ませることができるの。
結花　まあ、素敵。
彩夏　冷蔵庫と壁の隙間だって、掃除機と一緒に入れるのよ。

恵　羨ましいわ。私の王子様にはそんなことできないもの。
彩夏　４５キロしかなくて、ルシファーよりも軽いんじゃないかしら。稼ぎは少ないけど、食べる量も少ないから飼っておくのには便利でオススメよ。
結花　稼ぎが少ないのは私の王子様と似てますわ。
彩夏　それに、いるかいないかわからないくらい、存在を消すのが上手なの。
恵　そんなことできますの？
彩夏　最近じゃあ、いたとしても、いないこととして扱うことにいたしましたの。だって、あまりにも黒くて細くて見えないんですもの。
結花　気兼ねなく生活できるってわけね。
彩夏　そう。たとえ浮気だってし放題。
恵　私の王子様は公務員だから、安全パイなの。
結花　安全パイってワクワクしなくて食べやすそうなパイね。
恵　それに、チマチマしたことが好きで、手作りで時間のかかる、使えないしょうもないものをたくさんプレゼントしてくれるんですのよ。
彩夏　あら、素敵。
恵　あのガラスの靴だって、手作りでしたの。
結花　魔法いらずなんですのね。
恵　連れ子のうちの息子にもとっても優しくてね、息子のなつかないこと、なつかないこと。親権を奪われる心配なんてちっともないんですの。
彩夏　それこそ安全パイなんですのね。
恵　でも、私の貞操だけは、子どもがいない時で隙さえあれば狙ってくるの。
彩夏　私と私の王子様はレスだから、羨ましいわ。
結花　私の王子様はひきこもりなの。
恵　なんて素敵。
結花　だから、煩わしいお出掛けなんて皆無なの。旅行なんて言葉は、私の王子様の辞書にはないのよ。
彩夏　一人でなんでもできるわね。
結花　だからカボチャの馬車だって用済みなの。
彩夏　車の方が便利ですものね。
結花　私の王子様の稼ぎだけでは、到底食べていくことは望めないから、一緒にお出掛けしましょうなんて言われなくて幸せなの。
恵　そう、腐った馬車には乗れませんもの。
結花　いつも私の王子様は頭の中で逃避旅行をしているから、きっとそれで満足なんだと思うわ。
恵　まるで夢のようね。
結花　夢の中でも逃げているんでしょうね。歯ぎしりの多い王子様だから。

お城の鐘がなる。

彩夏　あら、大変。
恵　お城の鐘が、
結花　１２時になってしまったわ。
彩夏　魔法が解けてしまう、
恵　その前に、
結花　早く、

三人が退散準備をしている中、暗転。

シーン・８

浩之の家。
恵が息子のための作業（算数セットへの細かいシール貼りなど）をしている。
浩之が部屋に入って来る。

浩之　ただいま。
恵　おかえり。
浩之　ごめん、遅くなってもうて。
恵　うん。
浩之　拓実君は？
恵　寝てるに決まってるでしょう。何時だと思ってる？
浩之　そっか、そうやんな。
恵　宵っ張りのあなたとは違うの。
浩之　もしかして怒ってる？
恵　別に。
浩之　ほら、やっぱり。
恵　だから、別にって言ってるでしょう。
浩之　でも、別にって、
恵　別に怒ってるわけじゃないから。
浩之　それやったらええんやけど。
恵　で、どうだった？
浩之　どうやったって？
恵　飲み会だったんでしょう？　楽しかった？
浩之　え、うん、普通に。
恵　普通に楽しかったってこと？
浩之　まあ、そうかな。
恵　それなら良かった。久しぶりの集まりだったんでしょう？
浩之　７年ぶりらしい。
恵　ちぎり絵仲間だっけ？
浩之　うん。
恵　ちぎり絵なんて大人でもする人いるのね。
浩之　おるおる、ようけおるで、この家にも。（自分を指して）ほら、ここにもおるし。
　１０年選手の僕なんて若輩者若輩者。３０年選手かておるんやから。
恵　３０年も続けるつもり？
浩之　もっと上いくで。目指せ、５０年。
恵　幾つまで生きるつもりなのよ。
浩之　ちぎり絵愛は不滅やから。
恵　何杯飲んだの？
浩之　え、いつも通りやけど。
恵　いつも通りいっぱい飲んだってこと？
浩之　一杯やないで。けど、いっぱいでもないで。
恵　あなたのいつも通りはたくさんじゃない。
浩之　まあ、それなりにかな。
恵　そう。
浩之　お酒臭い？
恵　臭いかどうかは知らないけど、

浩之　けど？
恵　声が大きい。
浩之　声？
恵　近所迷惑になるから、静かにしてくれる？
浩之　そこまで、
恵　隣のマンションに人が入ったら、もっと言われるわよ。窓なんか開けられないかも。
浩之　なんで？
恵　あなたにはわからないかもしれないけど、ママ同士の噂話ってすごいんだから。
浩之　保育所の？
恵　横はハイソだから、保育所なんかじゃなくて遠くの有名幼稚園に行くんだろうけど。
浩之　でも、うちと同じ普通のファミリータイプらしいで、部屋。モデルルーム情報やと。
恵　モデルルーム情報って何よ。で、保険どうだった？
浩之　え、
恵　賠償責任保険。
浩之　ああ、
恵　調べておくって。
浩之　ごめん、
恵　してないの？
浩之　今はまだ、
恵　そうなの？
浩之　時間なかったから。
恵　飲みに行く時間はあっても、拓実のための時間はないってことね。
浩之　そういうわけやなくて。
恵　でも、そういうことじゃない。探してないんでしょう？
浩之　探してないわけやなくて。
恵　でも、見つけてないんでしょう？
浩之　ちゃうよ、ちゃうちゃう。証券は見つけてるって。
恵　じゃあ、
浩之　見つけたっていうか、そんな大切なもん、分からんとこにしまったりせえへんし。
恵　賠償責任保険はつけてたの？
浩之　つけてたんはそうなんやけど、
恵　良かった。
浩之　でも、そんなに簡単やなくて。
恵　どういうこと？
浩之　なんていうか、被保険者の範囲が問題っていうか、
恵　被保険者？
浩之　誰のまで保証されるのかっていう、
恵　本人限定ってこと？
浩之　そうやないんやけど、同居の親族ってなってて。
恵　同居の親族？
浩之　家の火災保険につけてるやつやったから。
恵　家族ならいいんじゃないの？
浩之　家族はええんやけど、
恵　それなら、
浩之　その、籍入れてれば問題なかったんやけど、
恵　どういうこと？
浩之　同居の親族としか記載されてなかってん。事実婚でもいけるんかどうかって分から

んくて。
恵　保険、健康保険とか、年金には入れてるんだから大丈夫でしょう？　扶養家族なんだから。
浩之　民間の保険は保険会社によって扱いが違ってくるらしくて。
恵　何、それ。
浩之　証券見ただけでは分からんくって。やっぱり保険会社に直接聞いてみるしかないみたい。
恵　扶養家族なのに、同居の親族じゃないってこと？
浩之　やから、そういうわけやなくて。
恵　だって、そういうことじゃない。私と拓実は、家族として認められないかもしれないってことでしょう？
浩之　それはあくまで可能性の話であって、保険会社の判断ってだけで。
恵　馬鹿にしてるわ。
浩之　せやから、結婚せえへんの？　って言うたんやん。
恵　え？
浩之　一緒に住むんやから、拓実君も一緒に。結婚って形とっておいた方が、
恵　事実婚は結婚じゃないって言いたいの？
浩之　そういうんやなくて、こういう時に、
恵　私言ったよね。籍は入れなくても結婚だよって。
浩之　それは僕たちだけの言い分で、
恵　ちゃんと説明したじゃない。それで理解してくれたじゃない。どれだけ前の結婚で苦労したか。籍さえ入れてなければ、私も拓実もあんな嫌な思いしなくて済んだのにって。
浩之　それは分かってるけど、
恵　もう嫌なの、法律どうのこうので揉めるのは。
浩之　僕とも揉めるかもって思ってんの？
恵　そんなこと思ってないけど。

恵、寝室の音を気にする。

恵　拓実、
浩之　え？
恵　寝言、いつもの。
浩之　聞こえたん？
恵　高いから響くのよね、拓実の声。
浩之　ふーん、
恵　拓実をこれ以上振り回したくないの。
浩之　うん、
恵　子どもらしい子どもでいてほしい。

浩之、耳を澄ますが、寝室からの音は何も聞こえない。

浩之　歯、磨いてくるわ。
恵　うん。
浩之　そや、歯ブラシ広がっとったやろ。新しいの買うてきたから。
恵　ありがとう。
浩之　歯ブラシの背側から見て、ブラシが飛び出しとったら、交換の時期やからな。
恵　はいはい。

浩之　拓実君の歯ブラシ、めっちゃ広がっとったで。
恵　子どものは早いのよね。
浩之　仮面ライダー・ビルドにしといたから。
恵　え？
浩之　あ、それとも新しい仮面ライダー・ジオウの方が良かった？　でも、ジオウは新しいから、まだ歯ブラシには、
恵　ああ、でも、
浩之　あ、もしかしてキュウレンジャーとか？　そうか、そっちやったか。キュウレンジャーなら、探せばどっかにはあったかもしれへんねんけど。
恵　今、拓実が好きなのは、ウルトラマンルーブよ。
浩之　え、ウルトラマン？
恵　ルーブ。
浩之　そうなん？　そうやったん？
恵　変わったみたい、最近。
浩之　そうか、そうやったんや、そうやったんか。
恵　せっかく拓実のこと考えてくれたのに。
浩之　いや、ええねん、それはええねんけど。ああ、そうか、そうやったんや。
恵　ニアミスで惜しかったんだけど、
浩之　そやな、ニアミスやな、うん。
恵　変わったの知らなかったんだ。
浩之　え？
恵　拓実、あなたには何も言ってなかった？
浩之　えっと、ウルトラマンのこと？
恵　そう。ウルトラマンルーブが如何にカッコいいか。
浩之　あ、うん。特に何も。
恵　兄弟が合体してルーブになるらしいわよ、拓実が言うには。
浩之　へー、そうなんや、兄弟が。
恵　僕にも弟がいたら、ウルトラマンになれるのにって。
浩之　え、弟？　拓実君、弟が欲しいってこと？
恵　「何、無理なこと言ってるのよ、拓実は一人っ子でしょ」って言ったら、「そうだよね」って笑ってたけど。
浩之　へー。でも、無理なことやないんやない、かなぁ。
恵　おもちゃじゃないんだから、弟は。無理じゃない。
浩之　でも、
恵　どうせウルトラマンルーブにはなれないんだから、
浩之　それは、そやな。
恵　でしょう？
浩之　うん、うんうん。
恵　磨かないの？
浩之　え？
恵　歯。
浩之　は？
恵　歯磨くんでしょう？
浩之　ああ、うん。
恵　でしょう？
浩之　歯磨いてくる。
恵　うん。

浩之、出て行く。

恵　（洗面所に向かって）磨いたら、代わってね。
浩之　え？
恵　これ（シール貼り）。
浩之　なんて？
恵　私も寝たいの。
浩之　ごめん、ちょっと聞こえへん。
恵　本当は苦手なのよ、こういうチマチマしたこと。
浩之　後で戻るから。
恵　後お願いね。私、先に寝るから。
浩之　（磨きながら）ん？
恵　おやすみ。

恵、浩之の返事を気にせず、作業を終えて出て行く。

シーン・9

彩夏の家。
将司が歌いながら、ストレッチをしている。
彩夏がやって来る。

彩夏　あれ、いてたんや。
将司　うん。
彩夏　家はもう大丈夫なん？
将司　大丈夫っていうか、
彩夏　もう少し向こうにおるって言ってなかった？
将司　そのつもりやったんやけど、
彩夏　けど？
将司　意味ないみたいやったから、いても。
彩夏　でも、人手がいるんやなかったん？　家の片づけとかあるって。
将司　そう聞いてたんやけど、
彩夏　ええの？
将司　ええっていうか、
彩夏　やってくれるってこと？　お姉さんたちが。
将司　まあ、そうかな。
彩夏　いくら、うちらよりは近くに住んでるって言っても、お姉さんかて、実家まで1時間はかかるやろ。
将司　実家ちゃうし。
彩夏　そうなん？
将司　お袋が生きとった頃の家は実家やけど、今は、
彩夏　引越ししたんやっけ？
将司　近くやけど。

彩夏　でも、実家ではあることには変わりないやんか。親の家なんやから。
将司　実家ちゃうから。それに、姉貴んとこからでも２時間は、
彩夏　なら、なお更、片づけ。弟さんかて。
将司　幸生は役に立たんから。
彩夏　それやったら余計、皆で一気に片をつけてしまった方が楽なんちゃうの？　片をつけるっていう言い方はちょっとひどいか。でも、
将司　大した荷物もないみたいやから。
彩夏　そうなん？
将司　親父一人やったし。
彩夏　それでも、
将司　業者に頼んだ。
彩夏　業者？
将司　らしい。姉貴が。
彩夏　業者って、
将司　遺品整理の。
彩夏　ああ、
将司　４時間やって。
彩夏　４時間？　お父さんの家、片づけるのが？
将司　来週らしい、作業日は。
彩夏　ああ、
将司　立会いなくてええらしいし、というか、せえへんことにした。
彩夏　誰も立ち会わないってこと？
将司　４時間で全部運びだして全部捨てるだけなんやから。逆に親族がおったら邪魔やろ。
彩夏　でも、
将司　ええねん。
彩夏　思い出の品とか、
将司　ほとんど何も持ってない親父やってん。お袋が死んでからは、まともに仕事もできてなかったみたいやし。
彩夏　お父さんまだ６０代やったんちゃうの。病気されなければ、
将司　６６歳、ええ年やろ。
彩夏　まだ６６歳やったんや。
将司　お袋亡くなってから、ほとんど会ってなかったし。
彩夏　結婚式には来てくれたやん。
将司　それだけやろ？　他に会ったことある？
彩夏　お母さんはあるけど、
将司　まあ、俺も人のこと言えた義理やないけど。
彩夏　話し合いとかしなくていいん？　家族の。遺品整理の費用とか、
将司　俺や幸生に金ないの知ってるから、姉貴が出すらしい。
彩夏　相続とか。
将司　ないない、見事に皆無。通帳残高ゼロ、タンス預金なし。
彩夏　反対に借金とか。
将司　借金がなかっただけでも、有難く思わなな。
彩夏　家は？　持ち家やないの？
将司　ちゃちうちゃう、借家。お袋との家も借家やったし。子どもの頃、あの新築みたいな、綺麗で新しいマンションに住むのに憧れたわ。隙間風や雨漏りのあるうちとは全然違って、西洋みたいなおとぎ話の暮らしがあるんやろうなって。
彩夏　西洋て。で、お父さん、滞納とか大丈夫やったん？

将司　今月分は払ってなかったみたいやけど、敷金でチャラになるらしい。
彩夏　それなら良かった。
将司　彩夏さん、良かったやん。
彩夏　え？
将司　親父が死んで。
彩夏　何で。
将司　もしこのまま生きとったら、生活保護やで。
彩夏　生活保護？
将司　生活保護もらってる義理の父がおるって、選挙で知れたら、足引っ張るやろ。
彩夏　そんなこと、
将司　ニュースで問題になっとったやん。なんちゃら議員のお父さんが生活保護を受給してるとかなんとか。
彩夏　ああ、
将司　外に子どもも作らせてたらしいし。
彩夏　え？
将司　浮気性やってん。恥ずかしいわ。
彩夏　そうやったんや。
将司　彩夏さん、
彩夏　え、
将司　絶対、うちの親父のことで苦しむとこやったって。
彩夏　ああ・・・お金の問題なんやったら、将司君、兄弟おるんやし。三人で割れば、そこまでの金額やないやろ。
将司　彩夏さんは、うちの家族のこと知らんから。
彩夏　そうやけど、
将司　お袋の貯金が底をつきたちょうどのところで死んでくれて良かってん。
彩夏　ちょっと、いくらなんでも、
将司　あんな親父、亡くなってせいせいしたわ。
彩夏　もう向こうには行かんでええんやね。
将司　ああ、行かへん、もう二度と。
彩夏　なら、車、修理に出すね。
将司　修理？
彩夏　ほら、村上さん、やなかった、佐藤さんとこの、
将司　佐藤？
彩夏　お母さんは村上やねんけど、
将司　もしかして、拓実君？
彩夏　そう。
将司　あの事故どうなったん？
彩夏　結局、向こうの賠償保険でいけるらしい。
将司　そう。それは良かったやん。
彩夏　拓実君とこ、ちょっと複雑みたい。
将司　複雑って？
彩夏　いや、複雑なんは、家やないか、保険。保険の方。籍入れてないと面倒みたい。
将司　籍入れてないってことは、
彩夏　そう、拓実君のお父さん、村上さんやなくて佐藤さんなんやって。
将司　でも、それがなんで保険に関係あるん？
彩夏　この国は保守的やから。ねえ、ガソリンまだあった？
将司　え、ガソリン？

彩夏　近場なら行けそう？
将司　ほぼゼロやけど、市内なら。
彩夏　１週間ぐらいかかるらしいから、修理。
将司　俺、普段、車乗らへんし。
彩夏　そうやんな。
将司　彩夏さんの車やし。
彩夏　それは名義の話やんか。
将司　乗ってもええの？
彩夏　当たり前やん。まあ、私がほとんど使ってるかもしれへんけど。

彩夏、出て行く。

将司　かもしれへん、やなくて、そうやけど。
彩夏　（奥から）なんか言うた？
将司　何も。
彩夏　（戻って）そのまま打ち合わせ行ってくるから、晩御飯いらんから。
将司　え、もう夜の話？
彩夏　うちおるんやろ？　今日。
将司　うん。
彩夏　そや、冷蔵庫の中の栗、ゆがいて適当に使ってくれてええで。
将司　え、栗？
彩夏　いってきます。

彩夏、出て行く。

将司　まだ朝っやっちゅうねん。それに、栗て。野山さんからの貰い物やろ。

将司、彩夏の出ていた先を見ている。

シーン・１０

結花の家。
結花がソファーでスマホを触っている。
直樹が部屋に入って来る。

直樹　ただいま。
結花　あ、おかえり。
直樹　結花も家にいたんだ。
結花　うん。
直樹　驚き桃の木山椒の木、山椒は小粒でもピリリと辛い、

直樹、結花の横に座ろうとする。

結花　ちょい待ちちょい待ち。

直樹　え？
結花　忘れてる。
直樹　忘れてる？
結花　帰ってきたんでしょう？
直樹　うん。
結花　帰ってきたなら、
直樹　え？
結花　先にすることあるでしょう？
直樹　ああ、
結花　ね。
直樹　結花りん、ただいまでチュウ。
結花　・・・は？
直樹　ただいまでチュウ。
結花　直樹、
直樹　あ、違った？
結花　当たり前でしょう。
直樹　なんだ、違ったか、違っちゃったか、じゃあ、
結花　いいから、早く行って来て。
直樹　え？
結花　おばあちゃんの口癖、
直樹　おばあちゃん？
結花　おばあちゃんの口癖なんでしょう？
直樹　口癖って、
結花　うがい、手洗い、にんにく卵黄。
直樹　ああ、にんにく卵黄。
結花　そっちじゃなくて、
直樹　いってきまーす。

直樹、出て行く。
結花、外から聞こえる音が気になって、窓際へ。
直樹、「ばあちゃんの口癖、うがい手洗いにんにく卵黄」と口ずさみながら、戻って来る。

結花　なんだかすごくご機嫌だね、今日は。
直樹　そう？
結花　何かあったの？
直樹　別に。
結花　それなら良いんだけど。この後に「ブッチして、ひきこもって」って続かなければ、
直樹　大丈夫大丈夫。
結花　バイトして、慣れて、陽気になって、ブッチして、ひきこもって、が直樹の恒例でしょう？
直樹　恒例にしたいわけじゃないから、っていうか、できるならしたくないから。

直樹、結花が外の音を気にしたのを見て、

直樹　猫？
結花　え、猫？

直樹　猫じゃないの？
結花　泣いてるんだと思ってた。
直樹　ないてる？
結花　うん。
直樹　猫が？
結花　じゃなくて、
直樹　子どもが？
結花　赤ちゃんが。
直樹　似てると言えば似てるけど、
結花　猫、だったんだ。
直樹　さかってるんだろうね。
結花　猫のさかりって今なの？　時期があるんでしょう？
直樹　猫飼ったことないから詳しくないけど、
結花　だよね。直樹が動物飼ってるの想像できないし。
直樹　今は時期とかないんじゃなかったかな、個体によって違うだけで。
結花　ずっと聞こえてるから、虐待されてるのかと思った。
直樹　虐待？
結花　最近多いって言うでしょう、だから。
直樹　ああ、
結花　良かった。赤ちゃんじゃなかったんだ。
直樹　結花、今日バイトだったんじゃないの？
結花　あ、直樹、知ってたんだ。
直樹　だって結花、話してたじゃん、来週は休みなくてしんどいって。
結花　よく覚えてたね、人のことなのに。
直樹　それくらい忘れないって。
結花　そっか、そうだよね。
直樹　今日、休みになったの？
結花　そうじゃないんだけど、
直樹　え、そうじゃないって、
結花　うん。
直樹　何？
結花　直樹のマネ。
直樹　俺のマネ？
結花　そう。
直樹　俺のマネって、
結花　ブッチ、ブッチしてみた。
直樹　え、
結花　初めて。人生初めてのバイトブッチ。
直樹　そうなの？
結花　そうなの。あ、でも、ブッチではないのかな、電話はしたから。でも、直前に電話するなんて、ブッチ同然だよね。
直樹　バイト辞めるってこと？
結花　わかんない。
直樹　今日だけのサボリってこと？
結花　今日だけなのかな、わかんない。明日のことは決めてない。
直樹　結花らしくない。
結花　ブッチ先輩として、どうしたらいいと思う？

直樹　ブッチ先輩って、
結花　だって、そうでしょう？
直樹　結花はどうしたいの？
結花　どうしよう。
直樹　でも、今日サボったんだったら、もうクビになってるかもしれないし、
結花　それは直樹でしょう。
直樹　え、俺？
結花　直樹と違って、私は日頃の行いがいいから。
直樹　それはそうなんだろうけど、
結花　だから、辞めさせられてないと思う。
直樹　すごい自信。
結花　明日行くって言えば、どうぞ来てって言われるだろうし。
直樹　なんか自分が悲しくなってきた。
結花　でもなあ、
直樹　行きたくないってこと？
結花　いつもの私だったら、ちょっとやそっとのことがあっても、自分を奮い立たせて、怒涛の忙しさをやっつけてたんだけどなあ。
直樹　ゴキブリみたいな強靭さで。
結花　こら、彼女をゴキブリに例えないの。
直樹　「ゴキブリと俺」。なんか本のタイトルみたいじゃない？
結花　それを言うなら、「蝸牛と私」でしょう。
直樹　蝸牛？　俺が？
結花　でしょう。
直樹　人生初のブッチしたくせに、それだけ明るいなら大丈夫だって。
結花　明るい？
直樹　俺はいつもどんよりうっちゃんだし。
結花　おいおい、空元気だって気づけよ。
直樹　空元気できるだけ強いんだって。
結花　ゴキブリみたいにって？
直樹　ゴキブリはもういいから。
結花　そう、ブッチついでに、大家さんに電話しといたから。
直樹　え？
結花　今月で出ますって。
直樹　大家さんって、
結花　そう、ここの。
直樹　え、え、
結花　返事ゆっくりでいいよって言ってたけど、タイムリミット迫ってきたから。リミット限界。間もなくタイムオーバー。
直樹　今月って、
結花　やっぱり早すぎ？
直樹　次の部屋も探してないのに、
結花　向いのマンション。
直樹　え、あれ？　あれはモデルルームじゃん。それも新築の。
結花　探してないわけじゃない。
直樹　あれも探したうちに入るの？　っていうか、まだ今月中に買って住むことできないし。っていうか、そもそも買うお金ないし。
結花　今月って大家さんに言ったんだけど、

直樹　けど？
結花　解約まで一か月はいるって言われて、来月までに延びちゃった。
直樹　ああ、来月、
結花　せっかくブッチついでに張り切ったんだから、大家さんも今月にしてくれたら良かったのに。
直樹　張り切ったって、
結花　ねえ。
直樹　張り切るところじゃないから。
結花　ということで、来月末までには引っ越ししますんで。ついては、部屋探しを急ぎますんで。
直樹　うん、
結花　直樹も身の振り方を、どうぞ早急にご検討くださいますようお願いいたします。
直樹　うん。
結花　ということだから。

結花、出て行こうとする。

結花　ごめんね。
直樹　え、
結花　ごめん。
直樹　結花？
結花　ごめんなさい。

結花、出て行く。

直樹　結花は、結花はどうしたいの？

取り残される直樹。

シーン・１１

直樹と別空間に、浩之、将司が現れる。
三人は互いを見るが、しっかりと相手の目を見ることはしない。
ぼそぼそと、それぞれの一家言を唱え出す三人。彼らにとってのその言葉は、唯一すがることのできる呪文のようなものなのかもしれない。

浩之　怖いのは死ぬことじゃなくて退屈なこと。
将司　飛べるかどうかを疑った瞬間に永遠に飛べなくなっているんだ。
直樹　とにかく自分がどんな人間に育ちたいのか決めることだ。
浩之　自由ってのも、結構面倒なもんでよ。いつも自由でいるためには、やんなきゃなんねぇしんどいことだってあんだよ。
将司　さよならを言ってはだめだ。なぜならさよならは去ることを意味し、去ることは忘れることを意味するから。
直樹　真のヒーローとは、どんな障害に直面しても辛抱し、耐え抜く力を持っている、普

通の人間である。
浩之　なっ、お前さんの人生はこれから始まるんだぜ。
将司　必要なのは、ただ信じる事さ。
直樹　Yes, I am superman!!!
浩之　Yes, I am　ルパン３世!!!
将司　Yes, I am　ピーターパン!!!
三人　Yes, I am　ヒーロー!!!

恵が入ってくる。
浩之と恵。

恵　まだ起きてたんだ。
浩之　うん。
恵　寝ないの？
浩之　眠れんくて。
恵　ちょっとうるさいもんね。
浩之　うるさい？
恵　そんなことない？　猫、必死に相手を探してるから。
浩之　ああ、いや、猫やなくて。
恵　他にも何かうるさい？　もしかして拓実の鼾？
浩之　いや、うるさいとかやなくて、
恵　そうよね。拓実、たまに小さな鼾するだけで、すぐ静かになるし。
浩之　眠られへんのは、音のせいとかやないから。
恵　そうなの？
浩之　どうせ寝られへんのやったら、仕上げてしまおうかなって。
恵　仕上げる？
浩之　消しゴムはんこ。
恵　まだやってたんだ。
浩之　拓実君の似顔絵の。あともうちょいで完成やねん。
恵　いいって。
浩之　でも、あと一息やねん。なかなかいい出来に仕上がっとって、
恵　いいって言ってるでしょう。
浩之　でも、
恵　要らないから。
浩之　え、
恵　拓実、欲しくないって。
浩之　そうなん？　そうやったん？
恵　パパに直接言いなさいって言ったんだけど。
浩之　知らんかった。

彩夏が入ってきている。
将司と彩夏。

彩夏　まだ起きとったん？
将司　うん。
彩夏　寝てへんの？
将司　彩夏さんが帰ってくるの待ってよう思って。

彩夏　将司君、明日も朝早いんちゃうの？
将司　５時半からバイトやけど、
彩夏　やろ？　やったらさっさと寝な。
将司　やけど、
彩夏　何？　何か私にお願いでもあるん？
将司　お願い？
彩夏　それとも文句？
将司　文句って、
彩夏　だって、そうやん。５時半からバイトなんやろ？　それなのに、こんな時間まで起きて待ってるんやろ？　そういう時は、お願いか文句のどっちかやん、いつも。
将司　そんなことないやろ。
彩夏　そうやん。もしそうやないんやったら、なんで「５時半からバイトやけど」なんてわざわざ言うん？　普通は言わんで。「朝早いん？」「うん、そやけど」ぐらいでええやん。
将司　だって事実やから。
彩夏　俺は大変やねんけど、どうせ彩夏さんはわかってくれへんもんな。わかってくれへんことぐらいわかってるけど、でも、もうちょっとは認めてほしいわ、ってそういう心の現れやん。それ以外の何物でもないやろ、違う？
将司　そないな言い方されると、
彩夏　違うって言える？
将司　俺かて、
彩夏　何なん？　何が言いたいん？　言いたいことがあるんやろ。
将司　彩夏さん、浮気してるんやろ？　野山さんと。

結花が入ってきている。
直樹と結花。

結花　起きてたんだ。
直樹　うん。
結花　眠れないの？
直樹　結花こそ。
結花　うん。
直樹　どうするか決めた？
結花　え？
直樹　明日。
結花　ああ、私か。直樹のことかと思った。どうするか決めたって。
直樹　ああ、
結花　行かないことにしようと思って。
直樹　そうなんだ。
結花　バイト辞める。辞めて、しばらく休む。それで、子ども産む。子どもを産むことだけ考える。悩んでたけど、悩んでてもしょうがないから。
直樹　産まれてきちゃうんだもんね。
結花　子ども産むこと以外は全て二の次にすることにする。産んだ後の仕事も、産んだ後の生活も、全部。考えてもわからないことばっかりだから。
直樹　考えることやめたってこと？
結花　答えのない問題に割いてる時間はないの。
直樹　俺は、

結花　直樹は？
直樹　俺はもう４２歳だから、
結花　だから？
直樹　結花はこんな俺でいいの？

浩之と恵。

恵　拓実がどう思ってるか知ってる？
浩之　え、
恵　あなたのこと、
浩之　俺のこと？
恵　そう。
浩之　ちまちましい、じゃなくて？
恵　あの子に言わせると、あなたは面白くない大人なんだって。
浩之　面白くない、大人。
恵　一刀両断よね。あなたにはあなたの楽しい時間があるのに、消しゴムはんことか、ちぎり絵とか。
浩之　とか、とか、言わんといてくれる？
恵　え？
浩之　俺かてむかつくねん。
恵　浩之？
浩之　消しゴムはんことか、ちぎり絵とか、って「とか」「とか」言うな。
恵　何怒ってるのよ。
浩之　「とか」で括られてええようなもんちゃうねん。
恵　別に馬鹿にしてるわけじゃないんだから。
浩之　面白くない事なんてない。
恵　あなたが楽しいと思う事が、拓実には退屈なだけじゃない。
浩之　拓実君が俺になつかへんのは、俺のせいだけやって言うんか？
恵　どういうこと？

将司と彩夏。

彩夏　知ってて、黙ってたんや、将司君。
将司　俺にはどうにもできへんし。
彩夏　弱いなあ。
将司　弱いねん。
彩夏　悪いのは、私やのに。
将司　俺は彩夏さんみたいにはなられへんし。
彩夏　何それ。私かて自分でなりたくてこんな人間になったわけちゃうし。っていうか、そうならざるえなかってん。
将司　彩夏さんは自分で選んだことをしてるやん。
彩夏　それはそうに決まってるやん。環境が人を作っていく。それなら、作られたとしても、その中で自分がやりたいように、やりたいことを選んでいく権利があんねんから。
将司　将司君はそれを放棄してんねん。
彩夏　放棄やなんて、
彩夏　自分では何も動こうとしないで、他人を動かさせてる。受け身で流されすぎやねん。

直樹と結花。

結花　ずるい。
直樹　ずるいかなあ。
結花　ずるいに決まってるじゃない。質問に質問返しは卑怯だよ。
直樹　卑怯か、
結花　そんなこと言うんだったら、答えてあげる。こんな俺でいいのか聞く直樹はよくない。よくないに決まってるじゃない。
直樹　そっか、そうだよね。よくないよね、やっぱ。
結花　私には時間がないの。直樹と４年間つきあってきて、直樹のこと好きだよ、好きだからここまで一緒にいたけど。けど、このままの二人で死んでいくのは嫌だ。
直樹　死んでいくって大げさな、
結花　生きていける自信がない。
直樹　俺だって自信なんかないよ。
結花　バイト辞めようと思ってるって話したけど、
直樹　え？
結花　その続きがあるの。
直樹　続き？
結花　辞めない。子ども産むまで続ける。だから、明日も行く。
直樹　そうなの？
結花　子ども産んで育てることを優先するなら、今辞めちゃダメだってわかったの。今が踏ん張り時なんだって。
直樹　そこまで無理しなくても、
結花　無理しないといけない時だってあるから、これからのことのために。
直樹　どうなるかわからないこれからのために、今を犠牲にするってこと？
結花　どうなるかわからないからこそじゃない。

浩之と恵。

浩之　恵が拓実君に言い聞かせてるからやろう？
恵　何を？
浩之　子どもは親の言葉を信じるしかないやろ。
恵　変な言いがかりつけないでよ。
浩之　聞いてしまってん、聞きたくなかったのに。
恵　え、
浩之　恵が拓実君に話してたのを。
恵　何？
浩之　前のパパと今のパパ、どっちがいいって。
恵　それくらい、普通の質問じゃない。
浩之　前のパパは、こんなにちまちましくも、みみちくもなかったのにねって。
恵　そんな言い方じゃ、
浩之　俺、ちまちましくてみみちいからさ、すぐにメモってん。表現も間違えたりせんように。日時も添えて。
恵　いつ？
浩之　１１月２０日２０時２５分。お風呂上りの洗面所にて。会話場所はリビング。前の会話内容は不明。発言者は恵３８歳、聞き手拓実５歳。「前のパパと今のパパ、どっちがいい？　前のパパは、こんなにちまちましくも、みみちくもなかったのにね。」覚えてし

もうてん。
恵　やっぱり、
浩之　やっぱり？
恵　やっぱり、みみちい。

将司と彩夏。

将司　彩夏さん、そんな風に俺のこと思ってたんや。
彩夏　私ばっかり動いてるのは事実やろ？
将司　俺は彩夏さんに良かれと思って動いてるつもりやってんけど、
彩夏　やったら、コンビニバイト辞めてくれる？　辞めて、専業主夫になって、選挙手伝ってくれる？
将司　ええよ。
彩夏　そうなん？
将司　彩夏さんがそう言うんやったら、
将司　嫌やって言うてたやん。
将司　最初は、選挙のために利用されてるようで嫌やってんけど、
彩夏　利用やなんて、
将司　利用でもええかって思ってん。けど、
彩夏　けど？
将司　もし当選したとしても、秘書にはならへん。その時は別で働く。彩夏さんのために働きたいけど、彩夏さんからお金をもらうんは嫌やから。あと、
彩夏　あと？
将司　子どもは無理やわ。
彩夏　なんで？
将司　今の俺たちに育てていけるわけがない。里子とるつもりやったんやろ？
彩夏　え、
将司　彩夏さんが産むんやなくて、
彩夏　まあ、そうやけど、
将司　やったら、今やなくてええやん。選挙でのアピールにはならへんけど。落ちても通ってても、それからの方がええと思う。
彩夏　反対やないってこと？

直樹と結花。

直樹　結花はどうしたいの？
結花　育休を貰おうと思ってる。
直樹　え、育休って、
結花　そう、育児休暇。
直樹　でも、結花バイトでしょう？
結花　バイトでも貰えるってわかったから。
直樹　そうなの？
結花　バイトのくせにって言われても、前例がないって言われても、貰えるものは貰おう思って。会社に迷惑かけるわけじゃないんだし。ただでさえ、貧民なのに、貰える権利を行使しないと、貧民でさえいられなくなるから。
直樹　けど、
結花　身重でバイトできなくなって、彼氏もひきこもりで無職なんてなったら、食べてい

けませんから、私もお腹の子どもも。
直樹　俺も働くから。
結花　働いても２００万未満じゃあ、家族三人は食べていけませんから。
直樹　それはそうかもしれないけど、
結花　頼るのやめようと思って。
直樹　俺に？
結花　男全般に。
直樹　え？
結花　自分の道は自分一人でも生きていけるようにって、寂しいけど。
直樹　結花？
結花　っていうことだから、明日バイト行ってきます。

何かに誰かにすがりつきたい人々。

浩之　怖いのは死ぬことじゃなくて退屈なこと。
将司　飛べるかどうかを疑った瞬間に永遠に飛べなくなっているんだ。
直樹　とにかく自分がどんな人間に育ちたいのか決めることだ。
結花　私の王子様はどこ？
彩夏　私の王子様はどこ？
恵　私の王子様はどこ？

空間と時間が交錯していく。

結花　ポストに入ってたチラシ見て、直樹が言ったんだよ、「見たいな」って。
直樹　俺が？
結花　興味あるって。
直樹　モデルルームって、新築のだよね？
結花　そう、（窓の外を指さして）あそこのマンション。
直樹　え、あれ？

彩夏　私の王子様はどこ？

恵　隣のマンションに人が入ったら、もっと言われるわよ。窓なんか開けられないかも。
浩之　なんで？
恵　あなたにはわからないかもしれないけど、ママ同士の噂話ってすごいんだから。
浩之　保育所の？
恵　横はハイソだから、保育所なんかじゃなくて遠くの有名幼稚園に行くんだろうけど。

結花　私の王子様はどこ？

彩夏　家は？　持ち家やないの？
将司　ちゃちうちゃう、借家。お袋との家も借家やったし。子どもの頃、あの新築みたいな、綺麗で新しいマンションに住むのに憧れたわ。隙間風や雨漏りのあるうちとは全然違って、西洋みたいなおとぎ話の暮らしがあるんやろうなって。
彩夏　西洋て。

恵　私の王子様はどこ？

直樹　次の部屋も探してないのに、
結花　向いのマンション。
直樹　え、あれ？　あれはモデルルームじゃん。それも新築の。
結花　探してないわけじゃない。
直樹　あれも探したうちに入るの？

女三人　私の王子様はどこにもいない。
男三人　Yes, I am　ヒーロー!!
恵　You are not my　王子様.
彩夏　You are not my 王子様.
結花 You are not my 王子様.
女三人　But・・・

窓の向こうの部屋の変化に気づく。

結花　ねえ、向いのマンションのカーテンが新しくなってる。
直樹　斎藤さんのとこ？
結花　カーテンが花柄になってるの。斎藤さんの趣味変わったのかな。

恵　ねえ、向いのお家の車が新しくなってる。
浩之　さっき、修理した車に乗ってるの見たんやけど。
恵　もしかしたら、二台にしたのかもしれないね。

彩夏　ねえ、向いのアパートが引っ越しするみたい。
将司　つい最近、ベビーカー届いてたはずなんやけど、あの部屋。
彩夏　家族で広いとこに引っ越すんかな。

窓の向こうの家の変化は、自らの家に変化をもたらすのだろうか。

女三人　変えてしまったから。

男三人、それぞれの女を見る。

女三人　ねえ、変わってくれる？

ゆっくりと椅子が揺れ出す。
登場人物たちは窓の向こうへと消えていく。

おしまい。

引用　シーン４とシーン１１の一部に、「ルパン三世」、「スーパーマン」、「ピーターパン」の有名台詞を引用しています。
引用箇所　Ｐ１４の８行目～１４行目、２１行目～２５行目、３２行目～３３行目。
Ｐ１５の３行目～５行目、７行目、９行目、１２行目～１４行目。
Ｐ３８のラスト８行。
Ｐ３９の１行目～４行目、Ｐ４４の１３行目～１５行目。